

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	短期大学の学科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン オビヒロオタニガクエン 学校法人 帯広大谷学園								
フリガナ大学の名称	オビヒロオタニキョウガク 帯広大谷短期大学 (Obihiro Otani Junior College)								
大学本部の位置	北海道河東郡音更町希望が丘3番地3								
大学の目的	教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、建学の精神に基づき、仏教精神を基調として、豊かな教養と専門的知識技能を授け、地域を志向した教育・研究・社会貢献に重きを置き、地域社会の文化の発展と福祉の向上に貢献できる社会人を育成することを目的とする。								
新設学部等の目的	看護に関する学術を中心として、広く知識を授け、深く専門の学術を教授、研究するとともに、知性、倫理及び応用能力を養い、地域社会で活躍できる実践力を備えた看護専門職を育成して、社会と看護学の発展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	看護学科 [Department of Nursing] 計	年 3	人 40	年次人 -	人 120	短期大学士(看護学) [Associate degree in Nursing]	令和5年4月 第1年次	北海道河東郡音更町希望が丘3番地3	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	地域教養学科(廃止) (△40) (令和5年4月学生募集停止) 生活科学科(廃止) (△40) (令和5年4月学生募集停止) 地域共生学科 (50) (令和4年5月届出予定) 社会福祉科介護福祉専攻〔定員減〕 (△10) (令和5年4月)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	看護学科	講義	演習	実験・実習	計	110 単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設	看護学科	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任
			人	人	人	人	人	人	人
			4 (3)	1 (1)	5 (5)	1 (1)	11 (10)	6 (6)	49 (49)
	分	地域共生学科	5 (5)	2 (2)	3 (3)	1 (1)	11 (11)	2 (2)	58 (58)
			計	9 (8)	3 (3)	8 (8)	2 (2)	22 (21)	8 (8)
	既設	社会福祉科子ども福祉専攻	2 (2)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	18 (18)
2 (2)			2 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	23 (23)	
計			4 (4)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	- (-)
合計		13 (12)	7 (7)	12 (12)	2 (2)	34 (33)	8 (8)	- (-)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		人		人		人		
	11 (11)		5 (5)		16 (16)				
	技術職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図書館専門職員		2 (2)		1 (1)		3 (3)		
その他の職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
計		13 (13)		6 (6)		19 (19)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	9,770.00 m ²	—	—	9,770.00m ²				
	運 動 場 用 地	19,333.00 m ²	—	—	19,333.00 m ²				
	小 計	29,103.00 m ²	—	—	29,103.00m ²				
	そ の 他	5,044.84 m ²	—	—	5,044.84 m ²				
合 計	34,147.84 m ²	—	—	34,147.84 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		8,051.39 m ² (8,051.39 m ²)	—	—	8,051.39 m ² (8,051.39 m ²)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	13 室	6 室	10 室	2 室 (補助職員0人)	0 室 (補助職員0人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数					
		看護学科		14 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共 用分：図書467 冊〔うち外国書 0冊〕	
	看護学科	3,902 [317] (2,663 [167])	21 [3] (21 [3])	4 [3] (4 [3])	36 (36)	1,862 (1,862)	26 (26)		
	計	3,902 [317] (2,663 [167])	21 [3] (21 [3])	4 [3] (4 [3])	36 (36)	1,862 (1,862)	26 (26)		
図 書 館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数				
		368.12 m ²		40 席	70,000冊				
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		1,180.32 m ²		—		—			
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子 ジャーナル・ データベースの 整備費（運用コ スト）を含む
	経費の見積り								
	教員1人当り研究費等		210千円	210千円	210千円	—千円	—千円	—千円	
	共同研究費等		300千円	300千円	300千円	—千円	—千円	—千円	
	図書購入費	11,837千円	3,483千円	4,305千円	5,126千円	—千円	—千円	—千円	
	設備購入費	72,310千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	
学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,580千円	1,380千円	1,380千円	千円	千円	千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、雑収入等						
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	帯広大谷短期大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
		年	人	年次 人	人		倍		北海道河東郡音更 町希望が丘3番地3
	地域教養学科	2	40	—	80	短期大学士 (地域教養学)	0.78	平成26年度	
	生活科学科	2	40	—	80	短期大学士 (生活科学)	0.75	昭和37年度	
社会福祉科						0.94			
子ども福祉専攻	2	70	—	140	短期大学士 (社会福祉学)	1.04	平成25年度		
介護福祉専攻	2	30	—	60	短期大学士 (社会福祉学)	0.69	平成元年度		
附属施設の概要		名称：認定こども園帯広大谷短期大学附属 音更大谷幼稚園 目的：関係法令を遵守し、幼児を保育し、適切なる環境を与えて宗教教育を施し、その心身の発達を助成することを目的とする。 所在地：北海道河東郡音更町希望が丘3番地3 設置年月：平成30年4月 規模等：土地4,134.00m ² ,建物1,301.83m ²							

教育課程等の概要																
(看護学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎分野	科学的思考の基礎	思考と表現	1前	2			○								兼1	
		哲学	1前	2			○			1					兼1	オムニバス
		倫理学	1前	2			○			1					兼1	オムニバス
		物理学	1前	1			○								兼1	
		生物学	1前		1		○								兼1	
		情報科学	1前		1			○							兼1	
	人間と生活・社会の理解	人間学	1前	2			○								兼1	
		憲法	1後	1			○								兼1	
		現代社会ととちかち	1前		2		○								兼1	
		英語 I	1前	2				○							兼3	
		英語 II	1後		2			○							兼3	
		英語コミュニケーション	1後		1			○							兼1	
		手話の世界	1前		2			○							兼2	
		体育実技	1通	2					○						兼1	
小計（14科目）		—	14	9	0	—			1	0	0	0	0	兼13	—	
専門基礎分野	人体の機能構造	形態機能学 I	1通	2				○		1						
		形態機能学 II	1通	2				○		1						
		生化学	1前	1			○								兼1	
		微生物・ウイルス・免疫学	1前	1			○								兼1	
	疾病の成り立ちと回復の促進	臨床薬理学	1通	2			○								兼1	
		臨床栄養学	1後	1			○								兼2	オムニバス
		病態生理学	1後	1				○		1					兼1	オムニバス
		診断治療学 I (呼吸・循環)	1後	1			○								兼3	オムニバス
		診断治療学 II (消化器・内分泌)	1後	1			○								兼2	オムニバス
		診断治療学 III (外科系疾患)	2前	1			○								兼5	オムニバス
		診断治療学 IV (頭頸部・感覚器)	2前	1			○								兼4	オムニバス
		診断治療学 V (産科学・小児科学)	2前	1			○								兼2	オムニバス
		診断治療学 VI (血液・自己免疫・精神・老年医学)	2前	1			○								兼4	オムニバス
	リハビリテーション論	2後	1			○								兼6	オムニバス共同(一部)	
	健康支援と社会保障制度	口腔保健論	2前	1			○								兼4	オムニバス共同(一部)
		公衆衛生学	2後	1			○				1				兼1	オムニバス
		社会福祉学	1後	1			○								兼1	
		社会保障制度論	2後	1			○								兼1	
		保健医療福祉連携論	2前	2			○				1				兼1	オムニバス
小計（19科目）		—	23	0	0	—			1	1	0	0	0	兼32	—	

教育課程等の概要																	
(看護学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1前	2			○			2						オムニバス	
		援助的人間関係論	1前	2			○			1							
		看護診断技術論 (フィジカルアセスメント)	1通	2					○		2			1			共同
		基礎看護学技術論Ⅰ (生活援助技術・生理的援助技術)	1前	2					○		2				1		共同
		基礎看護学技術論Ⅱ (診断治療に伴う技術)	1後	2					○		2				1		共同
		看護過程論	1後	1					○		2				1		共同
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	2前	2				○			1				1		オムニバス
		地域・在宅看護技術論Ⅰ	2後	2					○		1				1		共同
		地域・在宅看護技術論Ⅱ	2後	2					○		1				1		共同
	成人看護学	成人看護学概論	1後	2				○					2				オムニバス
		成人看護学技術論Ⅰ	2前	2					○				2				共同
		成人看護学技術論Ⅱ	2前	2					○							兼3	共同
	老年看護学	老年看護学概論	1後	2				○			1	1					オムニバス
		老年看護学技術論Ⅰ	2前	1					○				1			兼1	共同
		老年看護学技術論Ⅱ	2前	1					○				1			兼1	共同
	小児看護学	小児看護学概論	1後	2				○					1				
		小児看護学技術論Ⅰ	2前	1					○				1		2		共同
		小児看護学技術論Ⅱ	2後	1					○				1		2		共同
	母性看護学	母性看護学概論	1後	2				○			1				2		オムニバス
		母性看護学技術論Ⅰ	2前	1					○		1				2		共同
		母性看護学技術論Ⅱ	2後	1					○		1				2		共同
	精神看護学	精神看護学概論	2前	2				○			1						
		精神看護学技術論Ⅰ	2後	1					○		1				1		共同
		精神看護学技術論Ⅱ	2後	1					○		1				1		共同
	看護の統合と実践	看護管理学	3前	1				○			1						オムニバス
		災害看護学	2後	1				○								兼1	
		医療安全学	2前	1				○			1						オムニバス
		国際看護学	3通	1				○			1						
		研究方法論	3通	1					○		4	1	1	1			共同
		地元創成看護概論	2後	1				○			1						
		地元創成看護論演習	2後	1					○		2	1	5	1	6		共同
		スタートアップ演習	2前	1					○		2	1	4	1	6		共同
		基礎看護学特講	3前		1			○			1		1	1			オムニバス
臨床看護学特講		3前		1			○			1		1		3		オムニバス	
クリティカルケア特講	3前		1			○					2				オムニバス		
小計（35科目）		—	47	3	0	—			4	1	5	1	6	兼5	—		
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1後	1					○		2			1			共同	
	基礎看護学実習Ⅱ	2前	2					○		2			1			共同	
	地域・在宅看護論実習Ⅰ	3通	1					○			1			1		共同	
	地域・在宅看護論実習Ⅱ	3通	2					○			1			1		共同	
	地域・在宅看護論実習Ⅲ	3通	1					○			1			1		共同	
	成人看護学実習	2後	3					○				2				共同	
	老年看護学実習Ⅰ	2後	1					○					1			共同	
	老年看護学実習Ⅱ	2後	3					○					1			共同	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(看護学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門 分野	臨地 実習	小児看護学実習Ⅰ	3通	1					○			1		2	共同
		小児看護学実習Ⅱ	3通	1					○			1		2	共同
		母性看護学実習Ⅰ	3通	1					○	1				2	共同
		母性看護学実習Ⅱ	3通	1					○	1				2	共同
		精神看護学実習	3通	2					○	1				1	共同
		総合実習	3後	2					○	2	1	4	1	6	共同
		地元創成看護論実習	3後	1					○	2	1	5	1	6	共同
		小計（15科目）	—	23	0	0			—	4	1	5	1	6	兼0
合計（83科目）		—	107	12	0			—	4	1	5	1	6	兼49	—
学位又は称号		短期大学士(看護学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)								
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
基礎分野より必修14単位、専門基礎分野より必修23単位、専門分野より必修70単位、合計107単位を履修する。 基礎分野より選択9単位、専門科目より選択3単位、合計12単位のうち3単位以上履修する。 必修107単位と選択3単位以上を履修し、合計110単位以上を卒業要件とする。 履修科目の登録上限は、年間50単位とする。								1学年の学期区分				2学期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎分野	科学的思考の基盤	思考と表現	<p>本科目は、高等学校から大学への円滑な移行（主体的学習への転換）を図るため、大学教育に必要なアカデミックスキルと学習方法の習得等を目的とした「初年次教育」である。大学において必要となる基礎的な学習能力（学習資料の読解、情報の検索・収集・整理など）や意思疎通（報告・傾聴と質疑応答、議論）の技術、レポート・論文の書き方（課題の発見と論点の提示や論理展開の形式）などを修得する。こうした学びの過程を通じて人間関係を創る技術（コミュニケーション能力）を磨き、教員からの評価、学生間の相互評価、自ら行う自他の比較により自己を正しく評価する力をつける。</p>	
		哲学	<p>近代哲学の成立から心身二元論と心身一元論の違いを学び、「人間とは」「いのちとは」「生きるとは」の問いの中に自分自身を置くことで、自ら考えること、考えを深めていくことの過程を学ぶ。また、現代医学も含む科学技術を育んできた西洋の知の伝統を振り返り、その根本特徴を理解するとともに、東洋的なものの見方や考え方と比較し考察する過程を学ぶ。さらに、現代看護へつながるナイチンゲール思想に触れ、看護に求められている役割を深く考える態度を養う。ナイチンゲール思想から、学生自身が実践する看護をひも解いて考える力を養う。 (オムニバス方式) (17中野誠二/7回) 近代哲学を代表するデカルトの心身二元論の概観、東洋哲学のひとつである仏教哲学の考えから日本人の生き方や考え方を考察する等の講義を担当する。 (2山川京子/8回) 現代看護につながるナイチンゲールの思想から看護を考察する講義を担当する。</p>	オムニバス方式
		倫理学	<p>倫理とは何かという基本的考え方から、倫理的課題への対応として判断する際に必要な基本的知識を学ぶ。倫理学の歴史的背景をふまえながら、家族論・人間関係論の基礎を学び、人と人との関係の在り方を探求する。さらに、看護者の倫理綱領を基盤として看護職に必要な倫理に関する基本的知識を学び、倫理的意思決定プロセスの理解を深める。看護の場面においては、対象の生命の尊重・権利擁護・プライバシー保護に関する倫理的意思決定が伴う。医療技術の発展に伴い現代社会が抱える倫理的課題について、生老病死の観点から生命観や人生観を考察し、看護の対象となる人のその人らしい生について深く考える力を養う。 (17中野誠二/7回) 和辻哲郎の倫理学を概観し、倫理とは何かという基本的考えおよび倫理的課題と倫理的判断に必要な基本的知識についての講義を担当する。 (4石崎智子/8回) 医療倫理の倫理原則の概要、看護倫理の歴史および必要性と役割、倫理綱領に関する講義とディベートを担当する。</p>	オムニバス方式
		物理学	<p>看護援助における基本的な動作は科学的根拠に基づき行われる。患者の体位変換や移動の援助におけるボディメカニクス、体圧の分散、吸引・ドレナージの方法など看護行為の理解・習得のためには、その背景として物理学の理解が必要である。本科目では、看護援助行為の科学的根拠となる物理学の基本的な内容(運動力学、エネルギー、圧力、てこの原理など)を講義し、医療および看護の場で役立つ基本的な物理学の知識と考え方を修得する。</p>	
		生物学	<p>生命現象のしくみを学び、細胞および細胞から構成される組織についての基礎知識を修得する。生物学は生命を扱う自然科学であり、生命科学領域の発展によりヒトの遺伝子解析などの進歩から診断、治療に反映されつつある。自然科学の法則性を理解する一助として、生物に関する基礎知識および環境との基本的な関わりについて学修する。看護の対象となるのは人間であり、生物としての人体のつくりや正常な機能について知識を得ることで、加齢や疾病、障害が人体にどのような影響を与えるのか理解を深める。</p>	
		情報科学	<p>情報化社会に対応した情報科学の基礎知識を学修し、医療・看護の場で使用されている情報の種類や内容とそのシステムについて理解する。代表的なソフトウェアを使用し、文章作成およびデータ処理などの方法について、その目的や結果を考えて適切な手段を選択し、活用できる情報スキルを身に付ける。また、保健・医療・疫学・看護分野におけるデータの統計情報処理に必要な知識と技法を修得する。情報管理におけるセキュリティや倫理に関する社会事例や法制度、情報収集方法としての文献検索やインターネットの活用方法について学修する。</p>	
		人間と生活・社会の理解	人間学	<p>建学の精神である仏教の教え、親鸞聖人の教えを通して、全ての存在の根源である「いのち」について学ぶ。看護の対象となる人は一人の人間であり、健康に生きる人、生老病死の苦悩や希望を体験する人の「いのち」の意味を深く考えることが、看護の対象となる人を理解し援助関係を築く上で重要となる。本科目では、建学の精神を通して人の「いのち」の尊さと生きる意味について探求し、人を慈しむ心を育み、人間としての成長を目指す。</p>

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎分野	人間と生活・社会の理解	憲法	法学を概観した上で、最高法規である憲法の存在理由が基本的人権の尊重にあることを学ぶ。日常生活で体験する身近な問題を取り上げることにより、現代社会における法の生きた現実の機能を学ぶとともに、国民の権利と自由を守る基本的概念を理解する。人権各論を学ぶ中で、憲法判例に触れ、憲法が社会の中でどのように実現され、実現されていないかを考える機会とする。また、憲法を通じて国の統治機構を学び、全体を通じてリーガルマインドを獲得することを目的とする。	
		現代社会ととから	地方の自立を実現するための「まちづくり」、また地方創生という視点から地域社会の現状と課題について学ぶ。地域社会の成り立ち・枠組みを理解し、新聞やニュース等からできるだけ具体的な地域社会の現状と課題（経済、環境、労働、情報、少子高齢化、安全・安心、協働など）を考え、それぞれの課題についてその原因を把握し、解決方策について考察する。また、社会の現状との関係から、具体的にいま地域にある課題から社会のありよう（まちづくり）について考え、理解を深める。	
		英語 I	短大で学ぶ上で必要な、主体的に考える力や自らを表現する力を育て、さらに社会人としての基礎力を養うことを目的とする。英語の語法や文法の基礎を学び直しながら、日常会話で用いられる基本表現を「話し」・「聞く」ことができる力を養い、看護の学習や看護場面で活用できる英語の基礎能力と英語コミュニケーション能力を修得する。英語4技能を盛り込んだテキストを中心に英語コミュニケーション能力の基礎を固め、国際社会に生きる一員として外国人のものの見方や考え方について理解を深める。	
		英語 II	英語 I の学習を踏まえ、テキスト、雑誌、ウェブサイト、映画等さまざまな教材を利用し、語彙力を増強しながらコミュニケーションの手段としての英語を学修する。また、一般的な英語に関する語彙、英語表現について理解するとともに、英文講読力を養う。英語を通して外国の文化・習慣に触れ、異文化への理解を深め、また、自国の文化に対する関心を深めながら積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。国際社会に生きる一員として、自分のことや自国の文化を英語で発信できる力を養う。	
		英語コミュニケーション	本科目では英語のリスニング、スピーキング、読解、英作文の力を養い、英語力の向上に学生自らが強い関心と動機を持つことを目的とする。優れた英語力、英語による理解力を熟達させ、リスニング、音読、シャドーイング、サマリー&意見というプロセスを通して英語を総合的に学ぶ。また、日常の様々な状況における必要な語彙やフレーズおよび英文法の基礎知識を学ぶことで、これらを実際のコミュニケーションで使うことができるよう表現力の向上を目指す。	
		手話の世界	コミュニケーションは、人間が互いに意志・感情・思考を伝達し合うことであり、音声言語だけでなく視覚言語としての手話に関する基礎知識を学ぶことで、コミュニケーションを通して他者との意思疎通を図るために必要な力を養う。また、外見ではわかりにくい聴覚障害についての理解を深め、聴覚障害者の生活の中にあるコミュニケーションについて手話の習得を通して学ぶ。コミュニケーションの機能は情報の伝達だけに限らず、情動的な共感、相手の行動の制御などを幅広く含むことを意識することが求められている。コミュニケーションの成立のために、何が必要であるのかを手話を通じて理解を深める。	
		体育実技	社会環境の変化、体力・運動能力の移り変わりから現在における運動・スポーツの意義を理解し、生涯にわたって健康的で活動的な生活を営むための基礎を築くことを目的とする。バレーボール（6人制）を中心に卓球、バドミントン、バスケットボールなどの実践を通して、学生自身の体力向上や健康の維持・増進を図るプロセスを学修する。基本技術練習、ゲームにおいてルールを遵守し、他人と協調することの中で身体を動かすことの楽しさを知り、生涯スポーツとして自らの健康や体力の保持増進に必要な習慣を身につける。	
専門基礎分野	人体の構造と機能	形態機能学 I	人間の健康と生活に深く関わる学問である看護学において、その生命の営みや身体、疾病、生活などの側面から関与し理解するうえでは、人体の構造や機能についての理解が必要である。これら人体の正常な構造と機能について理解するために、人体の支持組織や運動機能、人体の恒常性維持のための機能、血液免疫系、体液の調節、生体防御機能などを中心に学ぶ。また、これらの機能が人体においてどのような働きを行っているのかを知ることによって疾病との関連を学修する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人体の構造と機能	形態機能学Ⅱ	本科目では、主に人体を構成する諸器官の基本的な形態構造を系統的に学習し、内在する法則性を理解する。消化器官による栄養の消化を吸収、循環動態に関連する心臓の拍出機能や末梢循環の調節、肺における呼吸の調節とガス交換、感覚器と神経系による情報伝達と処理、胎子・胎児から成人までの器官の成長過程について系統立てて学ぶ。本科目で学ぶ知識は疾患と病態、それに対する治療と看護を学ぶ上での基礎となるため、これらが人体においてどのようなシステムとして機能しているのかを知り疾病との関連を学修する。	
	生化学	本科目では、生命活動に必要な生体の機能と仕組みについて、その生命現象を引き起こす物質と化学反応について学修する。様々な生体の機能において、正常を維持するためにどの物質が重要な役割を果たしているのか、細胞内の物質の移動や糖質・脂質・タンパク質から行われるエネルギーの産生酵素やビタミン、ホルモンの機能、核酸代謝と遺伝情報などを学修する。また、正常から異常へと変化する際にどの経路が関連するのかを理解し、これらの異常と疾患との関連性についても学修する。	
	微生物・ウイルス・免疫学	本科目では、感染防御と感染の原因となる病原体及びその性質を理解するうえで必要な微生物学的基礎として、病原体による感染の成立、病原体別の伝播経路、病原体の種類と特性および疾患との関連、病原体の適切な処理方法などを学修する。また、生体が有する免疫機能の基本的な仕組みを知ること、免疫機能が病気や病態とどのように関わっているかを理解し、病原体と免疫反応から感染の予防とその対策について学修する。感染症の原因となる微生物・ウイルスは、医療現場を含めたあらゆる環境で増殖する。この原因を排除する仕組みが免疫である。微生物学、ウイルス学、免疫学の基礎を学ぶことで、それらが看護の現場でどのようにに関わり何に影響するのか理解を深める。	
専門基礎分野	臨床薬理学	本科目では、薬物の生体に対する作用と仕組み、薬物の吸収・代謝・排泄などの薬物動態学、有効性と安全性、薬理効果と副作用、有害作用と禁忌、管理法を学修し、薬物が生体に及ぼす影響を理解するうえで必要な基礎的知識を修得する。感染性疾患や免疫系・神経系・内臓系などの疾患に使用する薬物の作用機序や薬理効果と副作用、投与方法及び量、安全面での管理について学修する。また、がん治療における化学療法について学び、各種がんに対する抗がん剤の作用機序と薬理効果、有害事象、看護における管理について学修する。	
	臨床栄養学	本科目では、栄養学の基本である栄養素の種類と働き、食物の消化・吸収・代謝の仕組みについて学修し、食生活における栄養管理と栄養状態の評価、食事摂取基準など、臨床の現場で活用できる栄養に関する基本的知識を修得する。乳幼児期から高齢期にわたるライフステージの特性に関連した食事療法について学修し、成長や疾病予防、健康増進における栄養の意義を理解する。また、病院食や人工栄養法、栄養的素因が関係する疾患や栄養管理について学修し、チーム医療での栄養マネジメントにおける看護の役割について理解する。 (オムニバス方式/全15回) (28山崎民子/7回) 臨床栄養学の概論およびライフステージ別の栄養・食事管理、健康増進・維持のための栄養管理等の講義を担当する。 (15林千登勢/8回) 機能別の栄養補給法および場面、症状、疾患ごとに必要とされる食事療法に関する講義を担当する。	オムニバス方式
	病態生理学	本科目では、細胞や組織の障害、循環障害、炎症、免疫とアレルギー、代謝異常、先天異常と老化、腫瘍についての概略を学び、疾患により生じる様々な症状が、人体の生体機能や形態の異常としてどのように発生・経過し、治療によりどのように変化するのかを形態的、機能的な視点から学修する。各種臓器の機能が破綻することにより、疾患の症状としての異常が発生するまでの過程について学び、損なわれた生理機能の回復や失われた機能を補填するためにはどのような治療を必要とするのかを理解することで、看護援助を行う際の根拠となる知識を修得する。 (オムニバス方式/15回) (3大森行雄/8回) 病理病態論(人体の正常な機能からの異常と破綻、関連する症状)の講義を担当する。 (29関川三男/7回) 病態症候論(各臓器の破綻に伴う症候と疾患の関係について)の講義を担当する。	オムニバス方式
	診断治療学Ⅰ (呼吸器・循環)	本科目では、呼吸器、循環器、腎疾患について学修する。呼吸器疾患では、呼吸器の構造と機能、呼吸器感染症や腫瘍に関する症状と検査及び治療について、循環器疾患では、循環器の構造と機能、虚血性心疾患・不整脈・心不全に関する症状と検査及び治療について学修する。腎疾患では、腎臓の機能と構造、主な腎疾患の症状と検査及び治療、透析療法について学修する。呼吸、腎機能を含む循環は生命を支える最も重要な機能のひとつである。生命維持に直結する呼吸と循環の構造と機能及び主な疾患と治療について学び、看護援助に活用することを目的とする。 (オムニバス方式/8回) (30山本真/3回) 呼吸器の構造と機能、呼吸器感染症や腫瘍に関する症状と検査及び治療等の講義を担当する。 (31太田英喜/3回) 循環器の構造と機能、虚血性心疾患・不整脈・心不全に関する症状と検査及び治療等の講義を担当する。 (32久滝俊博/2回) 腎臓の機能と構造、主な腎疾患の症状と検査及び治療、透析療法等の講義を担当する。	オムニバス方式
疾病の成り立ちと回復の促進			

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
疾病の成り立ちと回復の促進 専門基礎分野	診断治療学Ⅱ (消化器・内分泌)	本科目では、消化器、内分泌、代謝疾患について学修する。消化器疾患では、食道、胃・十二指腸、腸・腹膜、肝・胆道系、膵臓の主な疾患と検査及び内科・外科治療について学修する。内分泌疾患では、甲状腺及び下垂体の構造と機能、主な疾患と検査及び治療に関して学修する。代謝疾患では、生活習慣病の予防と治療について学び、代表的な疾患である糖尿病について発症機序から治療および患者の自己管理について学修する。消化管の主な働きである食物の摂取・分解・吸収・排泄について理解するとともに、食物の消化吸収に大きく関与する内分泌・代謝の構造と機能及び主な疾患と治療について学び、看護援助に活用することを目的とする。 (オムニバス方式/8回) (33林淳也/4回) 食道、胃・十二指腸、腸・腹膜、肝・胆道系、膵臓の主な疾患と検査及び内科・外科治療等の講義を担当する。 (34島村佳一/4回) 内分泌疾患、代謝疾患の検査および治療と、糖尿病の発症機序から治療および患者の自己管理等の講義を担当する。	オムニバス方式
	診断治療学Ⅲ (外科系疾患)	本科目では、外科総論、放射線医学、運動器、泌尿器、女性生殖器疾患について学修する。外科総論では、外傷による侵襲に伴う生体反応と創傷治癒の過程及び創傷管理、救急医学、周術期管理について学修する。放射線医学では、治療や診断に用いられる医用放射線の基礎知識、主な放射線治療について学修する。運動器疾患では、骨・筋肉の構造と機能、外因性(骨折・脱臼・脊髄損傷など)・内因性(炎症性疾患や腫瘍など)の主な疾患の症状及び検査と治療について学修する。泌尿器疾患では、尿路系と男性生殖器の構造と機能、主な泌尿器疾患の症状及び検査と治療について学修する。女性生殖器疾患では、女性生殖器の構造と機能、機能的疾患や性分化疾患、女性生殖器腫瘍の症状及び検査と治療について学修する。外科医療や放射線医療の基礎的知識と成人期における種々の機能障害と疾患及び治療について学び、看護援助に活用することを目的とする。 (オムニバス方式/8回) (35有山梯三/3回) 外傷による侵襲に伴う生体反応と創傷治癒の過程及び創傷管理、救急医学、周術期管理等の講義を担当する。 (36宮本顕彦/1回) 治療や診断に用いられる医用放射線の基礎知識、主な放射線治療等の講義を担当する。 (37大矢卓/2回) 骨・筋肉の構造と機能、主な外因性・内因性疾患の症状及び検査と治療等の講義を担当する。 (32久滝俊博/1回) 尿路系と男性生殖器の構造と機能、主な泌尿器疾患の症状及び検査と治療等の講義を担当する。 (38三坂琴美/1回) 女性生殖器の構造と機能、機能的疾患や性分化疾患、女性生殖器腫瘍の症状及び検査と治療等の講義を担当する。	オムニバス方式
	診断治療学Ⅳ (頭頸部・感覚器)	本科目では、脳神経疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、皮膚疾患について学修する。脳神経疾患では、脳神経系の構造と機能、脳神経障害の症状と病態生理、主な疾患の症状と検査及び治療について学修する。眼疾患では目の機能と構造、主な疾患の症状及び検査と治療について、耳鼻咽喉疾患では、耳鼻咽喉・頸部の構造と機能、主な疾患の症状及び検査と治療について学修する。皮膚疾患では、皮膚の構造と機能、主な疾患の症状及び検査と治療について学修する。脳神経系の病態生理は、視覚・聴覚・知覚機能にも関与する。人間が能動的に活動するための機能とそれを阻害する主な疾患及び治療について学び、看護援助に活用することを目的とする。 (オムニバス方式/8回) (39井出渉/3回) 脳神経系の構造と機能、脳神経障害の症状と病態生理、主な疾患の症状と検査及び治療等の講義を担当する。 (40田邊章浩/2回) 目の機能と構造、主な疾患の症状及び検査と治療等の講義を担当する。 (41坂東伸幸/2回) 耳鼻咽喉・頸部の構造と機能、主な疾患の症状及び検査と治療等の講義を担当する。 (42佐藤英嗣/1回) 皮膚の構造と機能、主な疾患の症状及び検査と治療等の講義を担当する。	オムニバス方式
	診断治療学Ⅴ (産科学・小児科学)	本科目では、産科学における妊娠と分娩、小児科学における小児期の発達過程と代表的な小児疾患について学修する。産科学では、正常妊娠と分娩、ハイリスク妊娠や妊娠高血圧症候群、子宮外妊娠、流産・早産などの異常妊娠、分娩経過中に起こる異常や産科処置や手術に伴う問題、新生児仮死などについて学修する。妊娠中や周産期に起こる異常について理解し、医学的な対応について学修する。小児科学では、小児の発達過程、血液・腫瘍疾患、神経・筋・精神疾患に関する症状および治療について学修する。また、小児期によくみられる症状及びその原因、観察と対処方法についても学修する。妊娠・出産・新生児ケア、すべての健康レベルの子供の発達と疾患について学修することで、人間が生涯を通じて性と生殖に関する健康を守る過程を理解し、看護援助に活用することを目的とする。 (オムニバス方式/8回) (38三坂琴美/3回) 正常妊娠と分娩、ハイリスク妊娠や異常妊娠、分娩経過中に起こる異常や産科処置や手術に伴う問題等の講義を担当する。 (43清水重男/5回) 小児の発達過程、血液・腫瘍疾患、神経・筋・精神疾患に関する症状および治療等の講義を担当する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	<p>本科目では、血液疾患、自己免疫疾患、アレルギー疾患、精神疾患、老年医学について学修する。血液疾患では、血液の生理と造血機能、貧血・白血病・血友病などの症状及び検査と治療について学修する。自己免疫疾患、アレルギー疾患では、発症機序と病態生理、主な疾患の症状及び検査と治療について学修する。精神疾患では、心の機能と人格形成、精神医療の歴史、主な疾患の症状及び発症機序、治療と患者・家族の支援について学び、精神医療と福祉及び関係機関とのチーム医療について学修する。老年医学では、高齢者の生理的特徴と老年症候群、認知症に関する病態生理及び症状と治療、患者・家族への支援について学修する。血液や免疫の機能、アレルギーの仕組み及び疾患、人間の心の仕組みやメンタルヘルス、老いに伴う身体的・精神的機能の変化について学修し、看護援助に活用することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/8回) (44越智仁司/2回) 血液の生理と造血機能、貧血・白血病・血友病などの症状及び検査と治療等の講義を担当する。 (34島村佳一/1回) 免疫のしくみと病態生理、主な自己免疫・アレルギー疾患の症状および治療等の講義を担当する。 (45東端憲仁/3回) 心の機能と人格形成、主な精神疾患の症状と治療および患者・家族の支援等の講義を担当する。 (46池田千鶴/2回) 高齢者の生理的特徴と老年症候群、認知症に関する病態生理及び症状と治療等の講義を担当する。</p>	オムニバス方式
		<p>本科目では、リハビリテーションの概念や歴史、疾患や障害・生活機能の分類、リハビリテーションを必要とする対象の理解、リハビリテーションにおけるチームアプローチの意義及びチームにおける看護の役割について学修する。また、ノーマライゼーションの考え方や、機能障害を持つ人への多様なリハビリテーションについて学び、リハビリテーションを必要とする対象の身体上や生活上の特徴及び家族との関係性、経過別・機能障害別リハビリテーションのアセスメントの視点や看護の実践について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/8回) (47金藤公人/2回) リハビリテーションの概念、リハビリテーションの方法(医学的・職業的・教育的・社会的)の講義を担当する。 (48小野圭介、49小岩幹、50阿部正之、51平野尚美、52日野美貴/6回)(共同) 理学療法、作業療法、言語聴覚療法、リハビリテーションの評価、疾患別リハビリテーションの実践の講義を担当する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	健康支援と社会保障制度	<p>本科目では、歯科保健統計や歯科保健施策等の歯科保健の動向を理解し、口腔衛生の基礎知識と各発達段階及び健康レベル別の歯科保健指導について学修する。また、摂食嚥下のしくみと機能について、ライフステージごとの機能の変化や疾患に伴う摂食嚥下障害について学修する。さらに、ライフステージや健康レベルに適應した口腔ケアの実践について学び、人間のいのちの育みとしての「食べる」ことの意味と「食べる」ことを支える看護について、講義と演習を通して理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/8回) (53田中義博/5回) 歯科保健の動向、口腔衛生の基礎知識、各発達段階及び健康レベル別の歯科保健指導の講義を担当する。 (51平野尚美、52日野美貴、48小野圭介/3回)(共同) 摂食嚥下のしくみと機能、摂食嚥下障害のリハビリテーション、安全に食べるための姿勢づくりの講義を担当する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	<p>公衆衛生学</p> <p>公衆衛生活動は個々の疾病予防に対する自然科学的なアプローチと、社会・経済の変化や地域社会の文化・風俗・習慣とも密接に関連した人々の行動や生活習慣に着目するという社会的な面からのアプローチを必要とする。本科目では、公衆衛生の歴史や概念を理解し、社会における人々の健康増進や疾病予防、健康寿命の延長、地域や国ごとの健康への脅威に対処するための組織的な活動について学習する。地域社会の歴史や文化・風土などに関連した人々の行動や生活習慣に着目し、社会的な面から健康を支援する公衆衛生活動について保健行政の仕組みも含め学習し、人々の健康の維持増進に関わる広い概念の医療について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/8回) (54紺野圭太/3回) 公衆衛生の概念と歴史、保健統計の指標および動向、医療保障制度等の講義を担当する。 (5正保里恵子/5回) 対象の属性による公衆衛生上の特徴や学校保健、産業保健および疫学の基礎等の講義を担当する。</p>	オムニバス方式	
	<p>社会福祉学</p> <p>本科目では、社会福祉の基本的な理念と制度について理解するとともに、社会福祉の歴史や果たしてきた役割について学修する。貧困や障害、老いなどの課題を抱える人々への具体的な支援はどのような制度により保障されるのかを学修し、社会福祉に対するニーズの多様な現代社会における課題と国の施策について理解する。また、人間が人間らしく生きるための社会福祉や社会保障が、看護の場においてどのように関わるのかについて学修する。</p>		

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎分野	健康支援と社会保障制度	<p>社会保障制度論</p> <p>本科目では、我が国における社会保障制度や社会福祉の法制度、医療保障の仕組みや概要について学修する。また、保健医療福祉サービスの歴史の変遷を踏まえ、現代社会の多様化した保健医療福祉サービスに対するニーズを理解し、地域における健康課題と社会保障の法律的側面を関連付けて考える力を養う。法における基本的概念を学び、社会における法について考えを深めることで、人々の健康生活を支える保健医療福祉における関係法規の概念と仕組みを理解する。</p>	
	保健医療福祉連携論	<p>保健医療福祉連携論</p> <p>本科目では、看護職が保健医療福祉活動を実践する際に必要となる多職種との連携について、保健医療福祉の動向を踏まえて連携の意義や看護の役割について学修する。医療・介護ニーズの増大に伴い、地域完結型医療の推進や地域包括ケアシステムの構築が求められる中で、保健医療福祉の連携が必要な背景と多職種協働の意義について理解する。また、多職種の役割と連携方法について学び、人々のいのちと暮らしを守るための保健医療福祉をつなぐ看護の役割について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (12佐藤英晶/5回) (5正保里恵子/10回)</p> <p>戦後医療を取り巻く変化と社会福祉の関係、新たな連携の課題等の講義を担当する。</p> <p>多職種連携の意義、インタープロフェッショナルワーク、地域および医療現場における多職種協働の実際等の講義を担当する。</p>	オムニバス方式
専門分野	基礎看護学	<p>看護学概論</p> <p>本科目では、看護の本質についてナイチンゲールの思想から学び、看護の基本的概念、看護の専門性および倫理性や独自性、看護の対象、看護の役割と機能について理解する。看護の歴史の変遷から、看護が社会とどのように関連し変化・発展したのかを学び、看護を取り巻く社会状況と保健・医療・福祉の動向について理解を深める。また、主要な看護理論について学び、看護とは何かを探究することで看護専門職としての看護観を養う。さらに、国際的な看護活動の歴史と現状を学び、国際的見地から看護を学修することで、多様な文化や価値観を持つ人々の健康課題に対する看護の役割と機能について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (2山川京子/10回)</p> <p>看護の基本的概念と歴史、看護を取り巻く社会状況、看護における法的側面等の講義を担当する。</p> <p>(1大野夏代/5回)</p> <p>看護の対象理解、主要な看護理論、看護過程と看護技術等の講義を担当する。</p>	オムニバス方式
	援助的人間関係論	<p>援助的人間関係論</p> <p>本科目では、多様な価値観や性別、文化、世代の違いなどの立場が異なる人々の考えを理解し、人間関係を構築するために必要な基礎的理論と専門的コミュニケーション技法について学修する。人間は、他者との関係の中で成長していく存在であり、対人関係は看護の場面だけでなく、社会生活や日常生活のあらゆる場面の基盤となる。看護における援助的人間関係の基本的概念と倫理性を学び、コミュニケーション技法の学修を通して自己の傾向を理解する。また、自己理解を通して他者理解とはどういうことかを考え、他者理解に必要な受容や共感、傾聴、フィードバックについて学び、看護援助に活用する。</p>	
	看護診断技術論 (フィジカルアセスメント)	<p>看護診断技術論 (フィジカルアセスメント)</p> <p>本科目では、看護におけるヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントについて学習する。看護の対象の健康状態を生活の中の健康として捉え、生活行動の視点から情報収集し査定するヘルスアセスメントの重要性を理解し、フィジカルアセスメントの基本技術である問診・視診・聴診・触診・打診について学習する。対象に適したバイタルサイン測定と評価方法、呼吸音・心音・腸音の聴取方法について、講義やシミュレーション・ベースド・ラーニングを用いた演習を通して学習し、測定値の正常と異常が判断できる能力を養う。また、フィジカルアセスメントの技法を用いて観察した結果から、対象の健康状態、看護ケアの必要性および倫理性を考える過程について理解し、臨地実習で活用できることを目指す。</p>	共同
	基礎看護学技術論Ⅰ (生活援助技術・生理的援助技術)	<p>基礎看護学技術論Ⅰ (生活援助技術・生理的援助技術)</p> <p>本科目では、生活援助技術と生理的援助技術について学習する。看護技術は、看護の対象となる人の安全・安楽・自立を目指し、看護における基本的知識と科学的根拠に基づいた直接的な行為である。年齢や性別、健康レベルの異なる人々の生活を健康の側面から整える必要性および倫理性について理解し、感染予防に関する基本的知識と技術、生活環境を整える技術、食と排泄を整える技術、清潔を整える技術、活動と休息のバランスを整える技術、安楽を確保する技術について、講義やシミュレーション・ベースド・ラーニングによる演習を通して学習する。また、講義や演習による学びを通して看護技術の原理原則を理解し、技術を提供される対象の回復過程に適応した援助方法について考え工夫する力を養う。</p>	共同
	基礎看護学技術論Ⅱ (診断治療に伴う技術)	<p>基礎看護学技術論Ⅱ (診断治療に伴う技術)</p> <p>本科目では看護の対象が、安全かつ適正に検査や診察を受けるための診断治療に伴う技術について学習する。生命行動を支える技術として、呼吸・循環を整える技術、治療処置に伴う技術、与薬の技術、検査に伴う技術、創傷管理技術、救命救急処置の技術、食事や排泄を促すための技術について、講義やシミュレーション・ベースド・ラーニングを用いた演習を通して学習する。健康課題を持つ対象の主要な症状と看護援助に必要な倫理性について理解し、症状の緩和および解消に向けた援助技術について学ぶことで、生命活動を支える看護技術の基本的知識と科学的根拠について理解を深める。</p>	共同
	看護過程論	<p>看護過程論</p> <p>本科目では、看護を科学的に実践するための思考過程である看護過程の基本的事項や構成要素について学修する。看護過程のプロセスであるアセスメント・看護問題の明確化・看護計画の立案・実施・評価の一連の過程を、健康課題を持つ人の紙上事例を用いた演習や、シミュレーション・ベースド・ラーニングによる実践体験型学修を通して、その全体像を確認しながら学びを深める。また、個別性に基づく看護実践について理解するために、看護理論や看護モデルを活用し、対象の健康課題を解決するための思考と行動する能力および倫理性を養う。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	本科目では、地域における人々の暮らしと健康を支える地域・在宅看護の役割と機能、地域包括ケアシステムの意義や構造について学修する。地域・在宅看護を必要とする背景や歴史の変遷を理解し、あらゆる健康レベルの人々が、住み慣れた地域でその人らしく暮らすために必要な社会資源や法制度について学ぶ。また、地域包括ケアシステムにおける看護の役割と保健医療福祉活動の実際、多職種との連携・協働の重要性について理解し、地域で暮らす人々とその家族の健康と生活を支援する在宅看護活動の仕組みや在宅看護における倫理と権利擁護について学修する。 (オムニバス方式/15回) (5正保里恵子/8回) 地域・在宅看護の概念、地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護、地域療養を支える制度等の講義を担当する。 (高川真路美/7回) 在宅療養者と家族の支援、在宅療養を支える訪問看護、在宅看護における安全と健康危機管理等の講義を担当する。	オムニバス方式	
	地域・在宅看護技術論Ⅰ	本科目では、地域で暮らすすべてのライフサイクルにある人々の発達・健康課題と特徴を理解し、人々の健康づくりを支援するための基本的な考え方を学ぶ。個人や家族・集団・組織を含むコミュニティおよび地域を構成する人々が、どの場においても生き生きと暮らすために必要な看護活動と看護職の役割および倫理性について学修する。また、地域における健康課題を明らかにし、地域で暮らす人々の健康が維持・増進するために必要な多職種での支援方法について理解を深める。	共同	
	地域・在宅看護技術論Ⅱ	本科目では、在宅療養を必要とする人とその家族の、健康と生活を支援する在宅看護技術について学修し、在宅看護における日常生活援助ならびに医療的援助について学ぶ。また、退院前、在宅療養安定期、終末期など介入時期別の特徴、脳血管疾患患者、認知症、小児、独居など症状別・状態別の看護を学び、在宅療養の介入時期や状態に応じた在宅看護活動の展開について事例を用いて学修する。さらに、在宅療養を必要とする人とその家族を地域で支えるための地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関との連携と協働、社会資源の活用方法、看護職の役割と倫理性について、講義と演習を通して学修し理解を深める。	共同	
専門分野	成人看護学	成人看護学概論	本科目では、ライフサイクルにおける成人期の位置づけと成人期にある人の身体的・心理的・社会的特徴および発達課題について学修する。また、成人期の保健の動向と成人保健活動、保健医療福祉政策、社会環境との関係について学修し、成人を取り巻く環境と生活習慣に関連する健康課題について理解する。成人看護に有用な概念や理論を学修することで、成人期における健康破綻による身体的・心理的・社会的な影響や回復過程を支える看護援助および倫理性について考える力を養う。 (オムニバス方式/15回) (7佐藤千秋/8回) 成人期にある人の理解、成人期の保健の動向と成人保健活動、成人期にみられる健康障害等の講義を担当する。 (9彌富祐樹/7回) 成人看護に有用な概念(セルフケア・ストレス・危機・適応・自己効力・ヘルスプロモーション)等の講義を担当する。	オムニバス方式
		成人看護学技術論Ⅰ	本科目では、成人期の対象およびその家族に対し、急性期看護における生命の危機回避と疾病の回復過程を支える知識と技術について学修する。生命の危機状態にある急性期では、重篤な疾病や事故、手術などによる健康の急激な破綻に伴い、生体の防御反応や修復反応として様々な症状が出現する。急性期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、代表的な疾患の事例や演習を通して、対象およびその家族に対して、生命の維持・回復に必要な具体的な看護援助の知識と技術および倫理性について学ぶ。また、手術療法を必要とする対象の周手術期における身体侵襲や合併症について理解し、手術後の生活の再構築に向けての看護援助について学修する。	共同
		成人看護学技術論Ⅱ	本科目では、慢性病や障害による健康問題を持つ成人期の対象およびその家族が、症状をコントロールし障害と生活の制限を受け入れながら、健康的な生活を営むことを支える看護の役割や援助方法について学修する。また、終末期にある対象およびその家族の尊厳を守り、その人らしい最期を支えるための看護の役割と援助方法について学修する。対象の健康レベルに応じた身体的・心理的・社会的特徴を理解し、生活を再構築しながらその人らしく生きるためのセルフマネジメントや生活支援に関する知識および援助方法について学ぶことで、病期や障害と共存する対象およびその家族に寄り添う力と看護援助に必要な倫理性を養う。	共同
老年看護学	老年看護学概論	本科目では、老年期の対象の身体的・心理的・社会的特徴および加齢による生活の変化や健康問題について理解し、高齢社会における保健医療福祉の動向や社会保障制度、老年期の対象の権利擁護と老年看護の役割について学修する。老年期の発達課題および老年看護における理論の活用について学び、現代社会を生きる対象が、その人らしい生活を営み社会参加するための支援について考える力を養う。また、保健医療福祉施設および居住施設における看護の役割と倫理性、多職種連携について学修する。 (オムニバス方式/15回) (2)正保里恵子/7回) 老年看護学の概要、老年期における身体的、心理的、社会的特徴および加齢に伴う変化、統計指標から見た老年期の特徴、高齢社会における保健医療福祉システム等の講義を担当する。 (3)五十嵐友子/8回) 老年看護の機能と役割、老年期の対象の日常生活行動の理解、End-of-Life care等の講義を担当する。	オムニバス方式	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門分野	老年看護学	老年看護学技術論Ⅰ	本科目では、健康障害のある老年期の対象の特徴を理解し、加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化を踏まえたヘルスアセスメントを含む具体的な看護援助の方法について学修する。老年期の対象の生活機能障害が、対象とその家族に及ぼす影響について理解を深め、その特徴を踏まえたアセスメント方法とセルフケア支援について学修する。シュミレーション・ベースド・ラーニングによる演習を通して、対象とのコミュニケーション技術と生活機能を整える意味を考える力および看護援助に必要な倫理性を養う。また、検査や治療を必要とする対象とその家族の支援についても学修する。	共同
		老年看護学技術論Ⅱ	本科目では、老年期に多くみられる疾患とその症状に関連する背景や原因、病態、治療について理解し、老年期の対象とその家族が必要とする看護援助および倫理性について学修する。老年期に多い複合的な機能障害および関連する症状についてアセスメントする力を養い、健康逸脱からの回復を促す看護援助について学修する。老年期におけるエンドオブライフケアについて学び、対象の個性や価値観、家族、社会背景を踏まえた人生の最終段階における看護について理解を深める。またシチュエーション・ベースド・ラーニングによる演習を通して、健康障害をもつ対象の生活機能を支える看護援助について、創意工夫しながら実践する力を養う。	共同
	小児看護学	小児看護学概論	本科目では、小児看護の対象である子供の成長・発達・健康・家族・看護について学修し、すべての健康レベルの子供を対象とした小児看護の役割と機能を理解する。子供の発達段階各期における特徴や課題、子供を取り巻く社会環境、小児保健の動向、子供の権利擁護や倫理、子供の健康を守る保健医療福祉システムについて学修し、子供の権利を尊重した看護援助について理解を深める。また、子供と家族の関係、病気や障害が子供と家族に及ぼす影響について学修する。	
		小児看護学技術論Ⅰ	子供の成長発達に関する特徴および発達段階に応じた看護援助について理解し、様々な健康レベルにある子供に共通した日常生活援助の方法について講義と演習を通して学修する。現代社会における子供を取り巻く環境と小児保健の動向を理解し、障害のある子供と家族の特徴および社会的支援や、子供の環境要因の問題として子供の虐待と求められる支援について学修する。また、子供の成長や健康を守るための権利擁護と看護の役割および倫理性について、講義と演習を通して学びを深める。	共同
		小児看護学技術論Ⅱ	健康障害のある子供とその家族の特徴および症状や病時期に応じた看護援助について学修する。健康障害が子供や家族に与える影響および倫理性について理解し、子供の発達過程を踏まえたアセスメントや子供特有の治療・処置に対する看護、病期別(急性期、周手術期、慢性期、終末期)の看護、重症心身障害児と家族の看護、急性症状(発熱、嘔吐、下痢、脱水、痙攣など)のある子供の看護援助について学修する。また、子供のフィジカルアセスメントや医療行為に対するプレパレーション、事例による演習を通して学びを深める。	共同
	母性看護学	母性看護学概論	母性看護の基盤となる母性の概念およびリプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から性と生殖に関する健康について理解し、母性看護の意義や特性、役割について学修する。セクシュアリティの概念と発達・課題、女性のライフサイクルにおける各期の特徴および健康課題について学修し、女性の生涯にわたる健康維持・増進、疾病予防に対する看護援助について理解する。母性看護の歴史の変遷および母性看護に関する統計、関係法規、倫理的課題について学修し、人工妊娠中絶や性感染症、性暴力、児童虐待など、現代社会におけるリプロダクティブ・ヘルス/ライツをめぐる現状と課題について理解を深める。また、国際化社会における母性看護の現状と課題、看護の役割についても学修する。 (オムニバス方式/15回) (4石崎智子/3回) 母性看護の基盤となる概念、母性看護における倫理等の講義を担当する。 (坪井真美/6回) リプロダクティブヘルスに関する概念・動向・倫理、リプロダクティブヘルスに関する法や施策と支援等の講義を担当する。 (山口小百合/6回) 母性看護の対象理解、生殖に関する健康問題と看護等の講義を担当する。	オムニバス方式
		母性看護学技術論Ⅰ	本科目では、周産期における母子およびその家族の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、周産期の看護援助に必要なアセスメント技術や健康課題に対する支援について、講義と演習を通して学修する。周産期における母子の正常な状態と健康障害を伴う状態について、母子の身体的変化や妊娠経過に伴う心理的变化と社会的変化から理解し、妊産婦とその家族に適切な看護援助が実践できるような基本的知識と技術および倫理性について学修する。新生児の胎外生活の適応と生理的变化、健康状態のアセスメントについて計測および評価法について学修する。また、事例による演習を通して、母子およびその家族に対してウェルネスの視点を取り入れた看護過程の展開方法について学修する。	共同
		母性看護学技術論Ⅱ	本科目では、学童期や青年前期にある人々を対象としたセクシュアリティ教育に関する歴史の変遷および現状と課題について理解し、リプロダクティブヘルス/ライツの概念に基づいた性と生殖の健康および家族計画について講義と演習を通して学修する。学校教育における学習指導要領を踏まえたセクシュアリティ教育に関する考え方と教育の実践について学修し、対象が性と生殖に関する知識や価値観および性に対する肯定的な態度と倫理性を養うために必要な学習方法について、演習を通して理解を深める。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
精神看護学	精神看護学概論	精神看護学の基盤となるメンタルヘルスの概念を理解し、心の仕組みと働き、発達課題と精神の健康との関係、精神疾患と症状について学修し、精神看護の役割について理解する。ライフサイクル各期における発達課題と精神の健康との関係について、心の発達に関する理論を踏まえて学修し、生活環境や社会的状況がメンタルヘルスに与える影響および危機について理解を深める。精神医療と看護の歴史の変遷および精神看護に関連する法律について学修することで、患者の権利擁護や倫理について考える力を養う。また、精神保健医療福祉サービスと多職種協働について学修し、精神疾患を持つ人の暮らしを支える看護とその役割を理解する。	
	精神看護学技術論Ⅰ	精神障害を持つ人の様々な問題について理解し、精神障害が対象者とその家族に与える影響や生活を支えるための看護援助方法および倫理性、地域における精神保健医療福祉活動について学修する。代表的な精神疾患の成因と症状、経過などについて学修し、疾患に対する治療と看護援助方法、リハビリテーション、対象の安全を守るためのリスクマネジメントについて学びを深める。また、精神障害を持つ対象とその家族が地域で暮らすための社会資源について理解し、対象とその家族の地域生活を支える看護援助および精神保健医療福祉活動の実践について学修する。	共同
	精神看護学技術論Ⅱ	精神看護学援助論Ⅰを踏まえて、精神障害を持つ対象とその家族に対する看護援助技術および援助方法について、紙上事例とシミュレーション・ベースド・ラーニングによる演習を通して学修する。また、ロールプレイによる演習を通して、精神障害のある対象者との関わり方や看護に必要な基本的看護技術および倫理性について理解し、効果的な看護を展開するための技術について考える力を養う。これらの学修により、精神障害のある対象とその家族に対する看護援助および看護過程の展開に関する基本的技術を修得し、人権を擁護する看護のあり方について理解を深める。	共同
専門分野	看護管理学	本科目では、看護サービスの提供に係るマネジメントの基本的な理論や考え方について学修する。看護実践におけるケアマネジメントや倫理性、看護サービスマネジメントなどの組織運営に必要なマネジメント、および看護政策に必要な知識を学び、看護実践の質保証がマネジメントによって左右される重要性について理解する。看護サービスを提供する上で必要な人的資源・物的資源・財的資源を有効利用するためのマネジメントについて理解し、様々な資源の強みを活かすマネジメントの実践について考える力を養う。 (オムニバス方式/8回) (①山川京子/2回) 組織とマネジメントの基本、看護組織におけるマネジメント等の講義を担当する。 (/3回) 看護の質保証に関与するマネジメント、看護専門職のキャリアデザイン等の講義を担当する。 (①山川京子、 /3回)(共同) これまで実践した看護経験と授業で修得した知識を統合した事例検討を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)
	災害看護学	本科目では、国内外で多発する様々な災害が人々に及ぼす身体的・心理的・社会的影響と災害看護の基礎知識および看護職が果たす役割について学修する。地球規模で多発する自然災害やグローバル社会におけるテロや紛争、化学物質や放射性物質による事故などの人為災害に伴う健康被害に対応する知識と緊急救援活動について学修する。また、災害医療における多職種連携と協働、各組織間との情報共有や調整作業について理解し、看護職が果たす役割および倫理性について考える力を養う。	
	医療安全学	本科目では、医療現場におけるリスクマネジメント・安全文化の形成・医療事故の現状と課題・感染防止対策・有害事象の予防など多岐にわたる医療安全に関する基礎的知識と倫理性について学修し、安全な医療を提供するための組織としての取り組みおよび看護における安全対策について理解する。医療現場で発生しやすい事故とその発生のメカニズムを学び、医療安全を確保するための基本的な考え方と現場で行うべき安全行動の実践について理解する。また、薬害問題に関して、事例や薬害被害者の体験談等を通して薬害防止について考える力を養い、保健医療福祉チームの一員として医療安全文化を醸成する重要性を理解する。 (オムニバス方式/8回) (①山川京子/2回) 医療安全と看護の理念、事故発生のメカニズムとリスクマネジメント等の講義を担当する。 (/6回) 看護場面における医療事故と安全対策、医療現場における感染対策等の講義を担当する。	オムニバス方式
	国際看護学	様々な国や地域の社会・経済・教育・文化的な相違を理解したうえで、国際看護の役割および機能、日本における国際的看護活動の歴史と現状について学修する。グローバルヘルスや国際協力のしくみ、国際救援における具体的な看護活動について学び、国際看護における異文化理解の重要性、発展途上国の健康問題、看護活動などを理解する。国際的見地から看護を学習することで、地球上の人々の健康課題に対する看護の貢献のあり方と倫理性について考え、異文化における看護・医療サービス提供者としての姿勢について学びを深める。	
	研究方法論	本科目では、将来的な看護研究活動の基盤をつくるために、演習を通して研究の基礎的知識と研究のプロセス、研究倫理及び具体的な配慮について学修する。これまで明らかにされている研究成果や具体的な研究例から、看護における様々な事象に対する疑問や関心を深め、研究に重要な科学的かつ論理的な思考方法や研究者の倫理について理解する。文献レビューを通して看護学を探究する能力を養い、看護実践の場における研究活動を自立して行うための知識的基盤を修得する。	共同
看護の統合と実践			

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
看護の統合と実践 専門分野	地元創成看護概論	地元創成看護論は、本学が十勝地域の健康の担い手として社会参加していく授業である。本学が地元創成に関わる地元地域は十勝全域を指す。本科目では、本学が立地している地域の歴史や産業に関する知識および人々の暮らしについて学習する。これまで行政が担ってきた町づくりについて学び、地元創成の視点から地域で暮らす人々の未来を想像し、看護の強みを活かして健康増進や地域の活性化推進について考える力および倫理性を養う。地域で暮らす人々の健康増進や社会参加、地域の活性化推進に関する現状と課題を明確にし、希望につながる地域社会の創成を探究する。	
	地元創成看護論演習	本科目では、地元創成看護概論において地域の歴史や産業、町の暮らしについて学修したことを踏まえ、演習を通して地域で暮らす人々との交流を図り、地元住民と共に地元創成についての考察を深める。また、地域で暮らす人々を支える保健医療福祉サービスについて学習し、地元住民が抱える健康課題および倫理的な課題について理解する。町の暮らしの活性化を推進し、健康的に暮らすために必要なサービスや仕組みについて地元住民との交流により課題を明確化し、地元住民の未来の暮らしをつくる地域プロジェクトのデータベース作りに活かす。	共同
	スタートアップ演習	本科目は、基礎看護学実習Ⅱ、領域別実習を行うための準備演習として位置付ける。各実習の目的・目標および内容を理解し、実習を効果的に行うためのチームビルディングの重要性や倫理性、カンファレンスの意義および進め方、報告のあり方等について学修する。各実習において、知識・技術・態度の統合および科学的思考過程を用いた看護実践による学びを深めるために、実習への取り組み方や自己の課題について明確化し、看護チームの一員として主体的に学修できるよう実習の全体像について理解を深める。	共同
	基礎看護学特講	本科目では、講義・演習・実習を通して、これまで学んできた基礎看護学・看護管理・医療安全・成人看護学(慢性期)など、臨床の看護実践に関する知識・技術および重要事項について有機的に統合する。また、各分野に必要な基本および専門的知識を活用することで、対象の状況に応じた適切な看護支援について考える力および倫理性を養う。看護実践能力に関わる学修到達状況を確認しながら卒業時まで強化すべき課題を明確にし、主体的に学修を深め自らの能力向上に取り組む力を高める。 (オムニバス方式/8回) (1大野夏代/3回) 基礎看護学(看護の目的と機能、看護理論、フィジカルアセスメント等)の講義を担当する。 (10内海優子/2回) 基礎看護学(基本的日常生活援助技術、診療に伴う援助等)の講義を担当する。 (/1回) 看護の統合と実践(看護におけるマネジメント等)の講義を担当する。 (7佐藤千秋/2回) 成人看護学(慢性期にある患者と家族への看護等)の講義を担当する。	オムニバス方式
	臨床看護学特講	本科目では、講義・演習・実習を通して、これまで学んできた老年看護学、小児看護学、母性看護学、地域・在宅看護論など臨床の看護実践に関する知識・技術および重要事項について有機的に統合する。また、各分野に必要な基本および専門的知識を活用することで、対象の状況に応じた適切な看護支援について考える力および倫理性を養う。看護実践能力に関わる学修到達状況を確認しながら卒業時まで強化すべき課題を明確にし、主体的に学修を深め自らの能力向上に取り組む力を高める。 (オムニバス方式/8回) (8天谷美紀/2回) 老年看護学(老年期にある人の看護、介護保険制度と地域包括ケアシステム等)の講義を担当する。 (小林謙一/1回) 小児看護学(子供に関連する保健統計、子供の成長発達と健康障害等)の講義を担当する。 (山口小百合/2回) 母性看護学(母性看護の概念、妊娠・分娩・産褥期の看護等)の講義を担当する。 (4石崎智子/1回) 精神看護学(精神保健の基本的理解、精神疾患・障害等の基本理解等)の講義を担当する。 (高川真路美/2回) 地域・在宅看護論(公衆衛生および地域保健活動の基本的理解、在宅療養を必要とする人の看護等)の講義を担当する。	オムニバス方式
	クリティカルケア特講	本科目では、クリティカルケアを必要とする患者の身体的・心理的・社会的側面を理解し、患者とその家族に適切な看護援助のために、クリティカルケア看護の概念、特徴、患者の生命・生活を支える援助の方法について学習する。呼吸・循環・代謝などの重大な機能障害により生命の危機状態にある患者が、回復に向かうための高度先進医療および全身管理の知識と、患者の生命を守り生活を支える援助にかかわる幅広い知識について学びを深める。また、クリティカル領域における患者の家族を支える看護援助について考える力および倫理性を養う。 (オムニバス方式/8回) (9彌富祐樹/5回) クリティカルケアの概念、クリティカルケアにおける呼吸・循環・体液管理と看護等の講義を担当する。 (7佐藤千秋/3回) クリティカルケアにおけるターミナルケアと看護、クリティカルケアにおける倫理的課題等の講義を担当する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野 臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	本科目では、看護の対象となる患者を受け持ち、コミュニケーションや療養生活の観察、環境整備などの体験を通して、援助を必要とする対象との人間関係構築について理解を深め、専門職としての看護援助の独自性や専門性、倫理性について学習する。健康問題により入院している患者の療養生活を支える医療現場の見学を通して、病院の構造や機能、看護専門職としての役割と多職種との連携について理解する。また、看護学生として自主的・自律的に行動し、自己の学修課題について考察する。	共同
	基礎看護学実習Ⅱ	医療機関で療養生活を送る患者を受け持ち、基本的な欲求に基づく日常生活援助を中心に看護過程を用いて看護を実践する。看護実践にあたっては、健康問題により日常生活に支障をきたしている対象の情報を整理、分析および統合する力を養い、対象の看護上のニーズを明らかにする。また、対象に必要な看護援助を計画、実施、評価、修正する一連のプロセスを通して、科学的看護の思考過程について学習する。看護の対象とその家族との関係および看護の必要性や倫理性についての理解を深め、看護チームの一員としての責任を自覚し、主体的に看護を実践する力を養う。	共同
	地域・在宅看護論実習Ⅰ	本科目では、十勝管内の地域包括支援センターにおける地域住民に対する健康支援および介護、生活相談の実際について学習する。地域包括支援センターを利用する人々の健康や生活について学び、地域包括支援センターの役割を理解するとともに、地域住民の健康や生活を支える看護援助について考える力を養う。また、地域で暮らす人々が、安心してその人らしい生活を継続するための地域包括ケアシステムにおける看護専門職の役割と看護倫理を理解し、保健医療福祉チームの一員としての多職種連携・協働の実際について学びを深める。	共同
	地域・在宅看護論実習Ⅱ	本科目では、訪問看護ステーションにおける看護活動に同行し、在宅療養を必要とする人々とその家族の健康と生活を支援する在宅看護のプロセスおよび在宅看護技術について学び、在宅看護に必要な知識・技術・態度を修得する。疾病や障害を持ちながら在宅で療養する人々とその家族の療養生活のニーズを捉え、対象の尊厳を守る生活の継続に向けた看護援助と倫理性について考える力を養う。また、在宅療養を支える社会資源の活用の実践について学び、保健医療福祉チームの一員として看護が果たす役割について理解を深める。	共同
	地域・在宅看護論実習Ⅲ	本科目では、十勝管内の保健センターにおける地域保健活動の実際を知り、地域住民の健康を支える援助方法について学習する。地域特性を踏まえて健康課題を捉えることの必要性を理解し、すべての地域住民が健康的に生活するための地域保健活動における看護の役割と倫理性について考える力を養う。また、地域で暮らす人々の健康を維持・増進するための支援に関して、保健医療福祉チームの一員として看護が果たす役割および多職種協働・連携について理解を深める。	共同
	成人看護学実習	成人期にある対象が、健康破綻により身体的・心理的・社会的に及ぼす影響について科学的にアセスメントし、これまで学修した看護理論や援助方法、看護過程を用いて、様々な健康レベルに適応した看護援助を実践する。成人期にある対象とその家族の特徴を理解し、援助的人間関係を基盤に、看護チームの一員として対象の回復過程を支える看護実践に必要な知識・技術・態度・倫理性を統合的に修得する。成人期の周術期および急性期にある対象の治療に伴う心身の侵襲が対象に及ぼす影響をアセスメントし、回復過程を支援する看護援助について学修する。また、慢性病を持つ対象の看護過程を通して、疾病と共に生きる対象のセルフマネジメントについて学びを深める。	共同
	老年看護学実習Ⅰ	介護施設に入所・通所している老年期にある対象を受け持ち、日常生活の中での健康管理や慢性疾患管理を支援する看護援助について学修する。老年期にある対象とその家族の特徴について身体的・心理的・社会的側面から理解し、多様な健康レベルや加齢による日常生活の変化に適応しながらQOL向上を目指した看護援助に必要な知識・技術・態度・倫理性を養う。また、保健医療福祉チームの一員としての看護専門職の役割について考える力を養い、老年期にある対象の生活支援を可能にする保健医療福祉の様々な仕組みや制度についても学びを深める。	共同
	老年看護学実習Ⅱ	病院で治療を受けながら療養生活を送る老年期の対象を受け持ち、加齢や老年期特有の疾病に影響される健康問題に関連した対象の情報を統合的に整理し、対象の療養生活を支える看護援助を導いて実践および評価するプロセスを通して、老年看護の役割について学修する。老年期にある対象とその家族の身体的・心理的・社会的特徴を踏まえて、対象の持てる力を最大限に発揮できる看護援助について考察し、保健医療介護福祉チームの一員としての看護専門職の役割と倫理性について学びを深める。また、対象が人生の最終段階まで地域で暮らすことを支え、対象者の人生と価値観を尊重しQOL向上を目指した看護に必要な知識・技術・態度を養う。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野 臨地実習	小児看護学実習Ⅰ	保育所および幼稚園に通う乳幼児との関わりを通して、子供の成長発達段階を踏まえた日常生活行動について学修し、個々の成長発達段階に応じた看護実践に必要な知識・技術・態度を修得する。子供の養育場面の観察および遊びや運動支援を実践し、子供の生活行動の場から健康状態をアセスメントする力を養う。様々な健康レベルで外来受診を必要とする子供と家族の特徴を理解し、地域で暮らす子供と家族の生活環境が健康に及ぼす影響について学びを深める。また、保健医療福祉チームの一員であることを意識し、地域で暮らす子供と家族の健康回復・維持・増進に必要な看護援助および倫理性について学修する。	共同
	小児看護学実習Ⅱ	医療機関で療養生活を送る重症心身障害児を受け持ち、小児期に生じた健康障害による様々な機能障害が、対象の生活にどのような影響を及ぼすのかを日常生活における基本的ニードの視点からアセスメントし、安全で安楽に療養するための看護援助について学修する。看護過程を用いて対象の発達段階に応じた日常生活援助を実践し、看護援助の計画・実施・評価の一連のプロセスを通して、重度の障害を持つ対象の尊厳を守る看護および倫理性について学びを深める。また、看護チームの一員として、対象の療養生活を支える継続看護について学修する。	共同
	母性看護学実習Ⅰ	本科目では産褥期にある母子を受け持ち、これまで学修した看護理論や援助方法、看護過程を用いて、周産期にある母子とその家族に必要な看護援助を実践し、看護チーム活動としての母性看護の役割について学修する。周産期の女性および新生児の身体的・心理的・社会的特徴を総合的に理解し、対象の個別性に沿った看護援助と保健指導について理解を深める。また、周産期の看護援助技術および家族支援について体験を通して学修することで、母性看護の実践に必要な知識・技術・態度・倫理性を修得し、母性看護の特殊性と看護が果たす役割について考える力を養う。	共同
	母性看護学実習Ⅱ	本科目では、学童期や青年前期にある人々を対象とした教育の場を通して、性と生殖に関するセクシュアリティ教育の必要性と、教育に必要な知識・技術・態度を学ぶ。教育活動の計画・実施・評価の一連のプロセスを通して、リプロダクティブヘルス/ライツの概念に基づいた性と生殖の健康および家族計画について学修する。思春期の対象に対し、性と生殖に関する知識および価値観や性に対する肯定的な態度について指導をとおして学びを深める。また、保健医療福祉チームの一員として、地域で暮らす人々の健康を守るためのリプロダクティブヘルスケアを実践する役割および倫理性について学修する。	共同
	精神看護学実習	精神障害により入院治療を受ける対象を受け持ち、対象との関わりを通して、一人の人としての価値観や尊厳を守ることを意味を考え、精神心理面の健康課題がある人とのコミュニケーション技法と看護援助および倫理性について学修する。精神障害が対象の生活に及ぼす影響について身体的・心理的・社会的側面からアセスメントする力を養い、対象に必要な看護援助の実践を通して、医療チームの一員としての看護専門職の役割について学びを深める。また、精神障害を持つ対象の退院支援や生活支援の実際について学び、地域で生活するために必要な社会資源の活用および多職種連携について理解する。	共同
	総合実習	既習の講義や実習での学びを踏まえ、医療チームにおける看護職の役割と機能について学び、専門職としての責任感や倫理観を含めた基本的な看護実践能力を修得する。病院等における組織的に看護ケアを提供するためのマネジメント機能について、看護師長・主任・リーダー業務のシャドーイングを通して学修する。また、一勤務帯を通して複数の患者を受け持つことで、状況の優先度を考えながら計画的に看護援助を実践する力を養い、看護を継続して提供するために自己研鑽を継続する意味について学びを深める。	共同
	地元創成看護論実習	本科目では、十勝地域を地元と捉え、看護学を地元創成の資源として活かし、地域住民とのつながりを実践的に創る。地域住民の強みと看護学の強みを活かし、学び合いの社会を目指す取り組みを進め、希望につながる地域社会の創成を提言する。本学が立地する地元産業や保健医療福祉機関に赴き、地域が担う町づくりの課題を探求することで、地域における保健医療福祉チームの一員としての看護専門職の役割および倫理性について学びを深める。また、「ケアをたのしむ町づくり」をテーマとするワークショップにおいて、学修したことから得られた課題や将来構想などを活用したデータベースを作成し、十勝の新たな町づくりを提言する。	共同

学校法人帯広大谷学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
帯広大谷短期大学				帯広大谷短期大学				
地域教養学科	40	-	80		<u>0</u>	-	<u>0</u>	令和5年4月学生募集停止
生活科学科	40	-	80		<u>0</u>	-	<u>0</u>	令和5年4月学生募集停止
社会福祉科				<u>地域共生学科</u>	<u>50</u>	-	<u>100</u>	学科の設置(届出)
子ども福祉専攻	70	-	140	社会福祉科				
介護福祉専攻	30	-	60	子ども福祉専攻	70	-	140	
				介護福祉専攻	<u>20</u>	-	<u>40</u>	定員変更(△10)
				<u>看護学科</u>	<u>40</u>	-	<u>120</u>	学科の設置(認可申請)
計	180	-	360	計	180	-	<u>400</u>	